

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「SBI・V・S&P500インデックス・ファンド（愛称：SBI・V・S&P500）」は、2021年9月14日に第2期決算を行いました。

当ファンドは、SBI・V・S&P500インデックス・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてETF（上場投資信託証券）に投資し、米国の代表的な株価指数であるS&P500指数（円換算ベース）に連動する投資成果をめざして運用を行いました。

ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

第2期末（2021年9月14日）

基準価額	15,671円
純資産総額	312,260百万円
第2期	
騰落率	40.1%
分配金（税込み）合計	0円

(注1) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注3) 当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>
右記URLにアクセス⇒「ファンド情報」⇒「当該ファンド」を選択 ⇒ 「目論見書・定期レポート等」を選択 ⇒ 「運用報告書（全体版）」より該当の決算期を選択ください。

SBI・V・S&P500 インデックス・ファンド （愛称：SBI・V・S&P500）

追加型投信／海外／株式／インデックス型

交付運用報告書

第2期（決算日2021年9月14日）

作成対象期間（2020年9月15日～2021年9月14日）

 SBI Asset Management

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

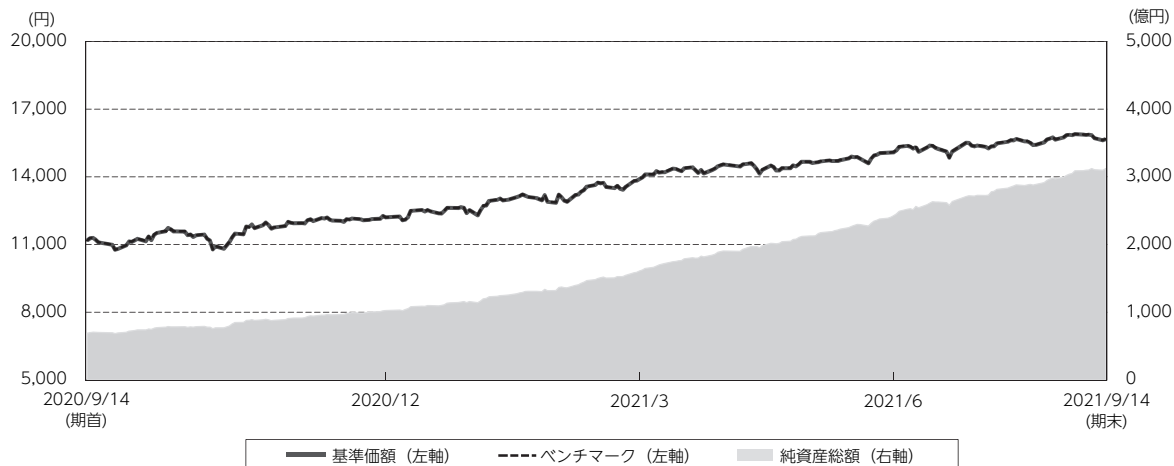
受付時間：営業日の9：00～17：00

ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。
<http://www.sbiam.co.jp/>

運用経過

基準価額等の推移

（2020年9月15日～2021年9月14日）



期首：11,183円

期末：15,671円（既払分配金（税込み）：0円）

騰落率：40.1%

（注1）ベンチマークは、S&P500®を委託会社にて円換算しています。詳細はP12をご参照ください。

（注2）ベンチマークは、期首（2020年9月14日）の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しております。

（注3）当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載しておりません。

（注4）ベンチマークの値は国内の取引所の営業日に準じて算出しています。

○基準価額の主な変動要因

上昇要因

- ・2020年11月の米大統領選、米議会選挙以降、選挙結果を巡る不透明感が払拭されたこと、新型コロナウイルスワクチン実用化により経済正常化への期待が強まったことから、2021年8月まで米国株式市場は概ね上昇相場が続いたこと。

下落要因

- ・2020年9月～10月に米大統領選、米議会選を巡る不透明感や新型コロナウイルスワクチンの早期実用化への懸念などで株式市場が軟調に推移したこと。
- ・1月以降の長期金利上昇によりハイテク株に下押し圧力が見られたこと。
- ・2021年9月期末にかけて、新型コロナウイルス変異株感染拡大による景気への悪影響が懸念されており株価を下押ししていたこと。

1万口当たりの費用明細

(2020年9月15日～2021年9月14日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	9	0.064	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(3)	(0.024)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(3)	(0.024)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.015)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	－	－	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有 価 証 券 取 引 税	－	－	(c)有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用	1	0.011	(d)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0.010)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0.000)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印 刷)	(0)	(0.001)	開示資料等の作成・印刷費用等
(そ の 他)	(－)	(－)	信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	10	0.075	
期中の平均基準価額は、13,423円です。			

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 項目ごとに円未満は四捨五入しております。

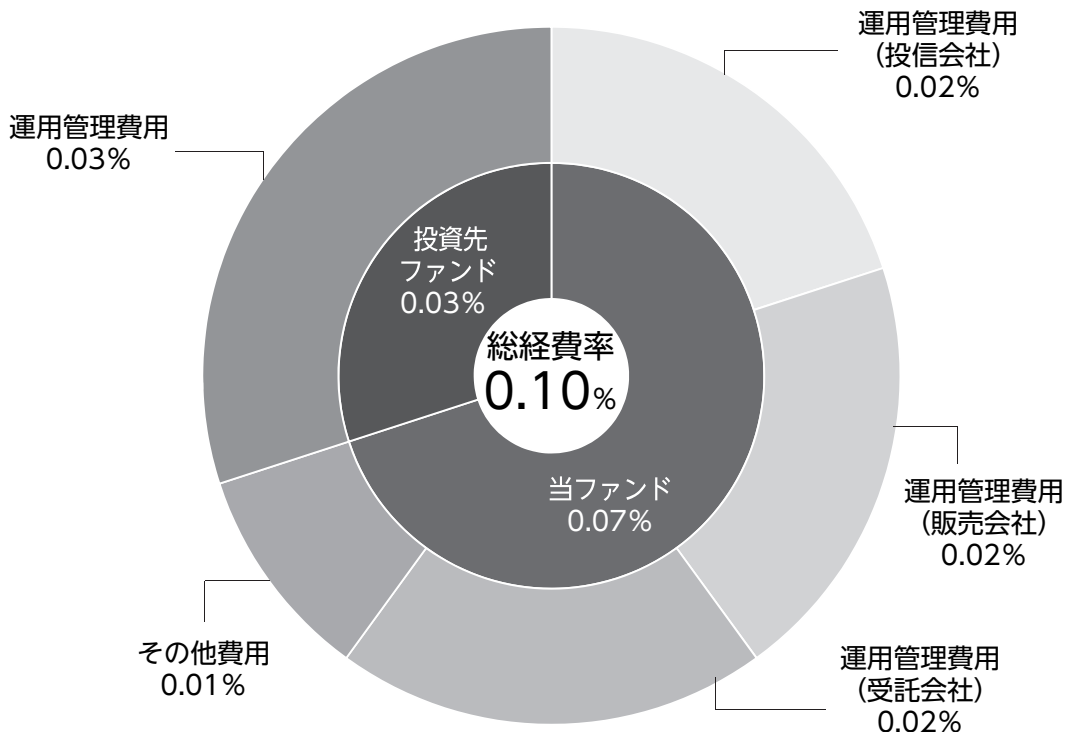
(注4) 売買委託手数料、有価証券取引税及びその他費用は、当ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

（参考情報）

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.10%です。



経費率 (①+②)	0.10%
①当ファンドの費用の比率	0.07%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.03%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。なお、四捨五入の関係により、合計が一致しない場合があります。

(注4) 投資先ファンドとは、当ファンドまたはマザーファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 投資先ファンドについては、運用会社等より入手した概算値を使用している場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2016年9月14日～2021年9月14日）



(注1) 当ファンドについては設定日以降のデータが5年に満たないため、実在するデータ（2019年9月26日から2021年9月14日）のみの記載となっております。

(注2) ベンチマークは、S&P500®を委託会社にて円換算しています。詳細はP12をご参照ください。

(注3) ベンチマークは、設定日（2019年9月26日）の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しております。

(注4) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載しておりません。

(注5) ベンチマークの値は国内の取引所の営業日に準じて算出しています。

	2019年9月26日 設定日	2020年9月14日 決算日	2021年9月14日 決算日
基準価額 (円)	10,000	11,183	15,671
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	11.8	40.1
ベンチマーク騰落率 (%)	—	11.9	40.1
純資産総額 (百万円)	1,638	68,992	312,260

(注1) ベンチマークは、S&P500®を委託会社にて円換算しています。詳細はP12をご参照ください。

(注2) ベンチマークは、設定日（2019年9月26日）の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しております。

(注3) ベンチマークの騰落率は国内の取引所の営業日に準じて算出しています。

(注4) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注5) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2020年9月14日の騰落率は設定当初との比較です。

投資環境

（2020年9月15日～2021年9月14日）

<米国株式市場>

期初、9月は大型ハイテック株中心に売りが見られ軟調となり9月23日にS&P500は当期安値の3,236.92を付けました。新型コロナウイルスワクチンの早期実用化期待が後退したことや経済対策法案の協議膠着などが背景でした。10月も欧米の新規感染再拡大や経済対策法案の協議膠着などから軟調となりました。11月に、大統領選を巡る混乱はありましたが、新型コロナウイルスワクチンの実用化期待が高まったことやトランプからバイデンへの政権移行が進展するとの期待から上昇に転じました。12月はワクチン接種開始への期待から続伸しました。2021年に入り、1月は、景気回復にともなう長期金利上昇への懸念が発生し下落しました。2月は全体として上昇しましたが、長期金利上昇にハイテック株が売られた一方、景気回復期待や原油高からエネルギーなど景気敏感株が買われるなど循環物色が見られました。3月は長期金利上昇にハイテック株の不振が続きましたが、1兆9,000億ドル規模のインフラ投資計画など経済対策法案への期待やワクチン接種による集団免疫獲得への期待などから景気敏感株が買われ米国株式市場は大幅に上昇しました。4月は良好な第1四半期企業業績発表やバイデン政権のハイテック産業への投資期待や長期金利低下でハイテック株が買われたことなどから続伸しました。5月はインフレ加速への懸念、雇用情勢を巡る不透明感に加えてFRB（米連邦準備制度理事会）のテーパリング（量的緩和縮小）開始時期を巡る思惑などから、保合いとなりました。6月はFRBの利上げ見通しの前倒しなどで景気敏感株が売られたり、長期金利の低下により金融株が売られ、ハイテック株が買われるなど循環物色が目まぐるしく続くなか上昇しました。7月も米長期金利が低水準で推移するなか、第2四半期業績発表が良好であったことから堅調に推移しました。8月は、堅調な7月雇用統計や議会でのインフラ投資法案可決などが好感される一方、FOMC（米公開市場委員会）で年内のテーパリング開始が示唆されたことが悪材料となりました。しかしながら、下旬にはパウエルFRB議長のジャクソンホール講演が市場で好感され上昇し、9月2日にS&P500は期中高値4,536.95を付けました。その後は、テーパリング開始時期、利上げ開始時期と株価に与える影響を巡る思惑に不安定な相場となりました。さらに、7月に始まった新型コロナウイルス変異株による感染再拡大の勢いが止まらないことと景気に与えるマイナスの影響、足許の景気指標の悪化による景気減速への懸念などが強まり、株式市場は軟調となりました。結局、4,400台で引けました。

<外国為替市場>

期初、米ドル円相場はFRB（米連邦準備制度理事会）の金融緩和の長期化観測や、米国の追加経済対策の遅れなどから、米ドル安円高傾向となりました。10月も、基本環境は変わらず、欧米における新型コロナウイルスの感染再拡大もあり米ドルは対円で下落を続けました。11月も、新型コロナウイルスの感染再拡大に伴う米国景気の先行きへの不安感から米ドル安基調が続きました。こうしたなか、ワクチン開発への期待が高まり米ドル高材料となりました。12月は、新型コロナウイルスのワクチン実用化期待が米ドル買い材料、感染拡大への懸念が売り材料となるなか、FRBが量的金融緩和策の長期化を示唆したことから米ドル安円高基調が続きました。2021年1月は、ジョージア州の上院決選投票の結果により、バイデン政権での巨額の財政出動への期待が高まったことやワクチン実用化の進展で景気拡張への期待が強まったことから米長期金利が上振れました。これにより、米ドル高円安となりました。2月は、米国でワクチン接種が拡大するなか、追加経済対策への期待もあり景気拡張観測が強まり、米ドルは対円で上昇しました。3月も、米国における新型コロナウイルスワクチン普及や追加景気対策による

景気回復が加速するとの観測から米ドル高円安傾向が続きました。4月は、米国当局がワクチン接種の副反応の報告により一部の米医薬品メーカーのワクチン接種の中断勧告をしたことから、経済再開が遅れるとの懸念が強まりました。FRBの金融緩和策が長期化するとの観測も強まり、米長期金利の低下も見られ、米ドル高円高となりました。5月は米4月雇用統計の下振れが売り材料となりましたが、米国消費者物価指数の上昇に伴い米国長期金利が上昇したことから、米ドル高円安となりました。6月は、FRBが金融正常化を急がないとの見方が強まるなか米国長期国債利回りが低下したことが売り材料となりましたが、好調な米経済指標発表が米ドル買いを支援し、米ドル高円安となりました。7月は、一部の米経済指標に下振れが見られたことや、変異株による新型コロナウイルス感染拡大への懸念などから米ドルは対円で下落しました。8月は、米国長期国債利回りの低下、中国景気の鈍化観測やアフガニスタン情勢の緊迫化などがドル売り材料となりました。しかしながら、良好な米国雇用統計発表や米サービス業の景況感改善などコロナ禍からの回復を示す指標の発表を受けて米ドル高円安となりました。9月に入り、米国のテーパリング（量的金融緩和の縮小）開始時期、利上げの開始時期を巡り、9月22日のFOMC（米公開市場委員会）を前に思惑が交錯するなか米ドル円は横ばいの動きとなり当期を終えました。

当ファンドのポートフォリオ

（2020年9月15日～2021年9月14日）

<当ファンド>

ベンチマークである「S&P500指数（円換算ベース）」に連動する投資成果をめざし、主要投資対象であるSBI・V・S&P500インデックス・マザーファンド受益証券を高位に組み入れて運用を行いました。

<SBI・V・S&P500インデックス・マザーファンド>

ベンチマークである「S&P500指数（円換算ベース）」に連動する投資成果をめざして運用を行ってまいりました。

また、ファンドの運用にあたっては、バンガードが運用を行う「バンガード・S&P500 ETF」を主要投資対象として運用を行いました。

なお、当期の投資信託証券の組入比率に関しては、95%以上の組入比率を維持しました。期末の組入比率は99.6%となっております。

当ファンドのベンチマークとの差異

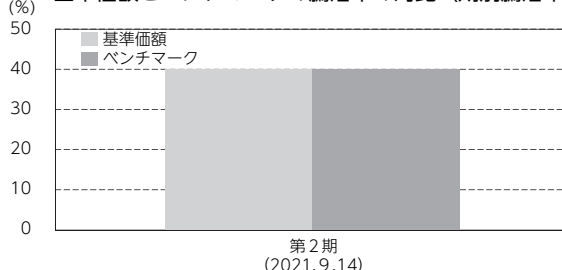
（2020年9月15日～2021年9月14日）

期中において基準価額及びベンチマークである「S&P500指数（円換算ベース）」の騰落率はともに+40.1%となりましたが、個別には以下のようなプラス要因、マイナス要因があります。

主なプラス要因：ファンドとベンチマークにおいて適用される配当税率の差異及び組入ETFとベンチマークの価額の差異。

主なマイナス要因：ファンドと組入ETFにおける信託報酬、運用コスト及びファンドのキャッシュ・ポジション。

基準価額とベンチマークの騰落率の対比（期別騰落率）



(注) ベンチマークはS&P500指数（円換算ベース）です。詳細はP12をご参照ください。

分配金

（2020年9月15日～2021年9月14日）

当期の収益分配は、運用の効率性と基準価額の水準を勘案し見送ることといたしました。

なお、収益分配にあてなかった利益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第2期
	2020年9月15日～ 2021年9月14日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	5,671

（注1）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注2）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

<当ファンド>

引き続き、ベンチマークである「S&P500指数（円換算ベース）」に連動する投資成果をめざし、主要投資対象であるSBI・V・S&P500インデックス・マザーファンド受益証券を高位に組み入れて運用を行う方針です。また、現金比率を極力抑え連動率を高めていく所存です。

<SBI・V・S&P500インデックス・マザーファンド>

引き続き、「バンガード・S&P500 ETF」を主要投資対象とし、ベンチマークである「S&P500指数（円換算ベース）」に連動する投資成果をめざして運用を行います。

お知らせ

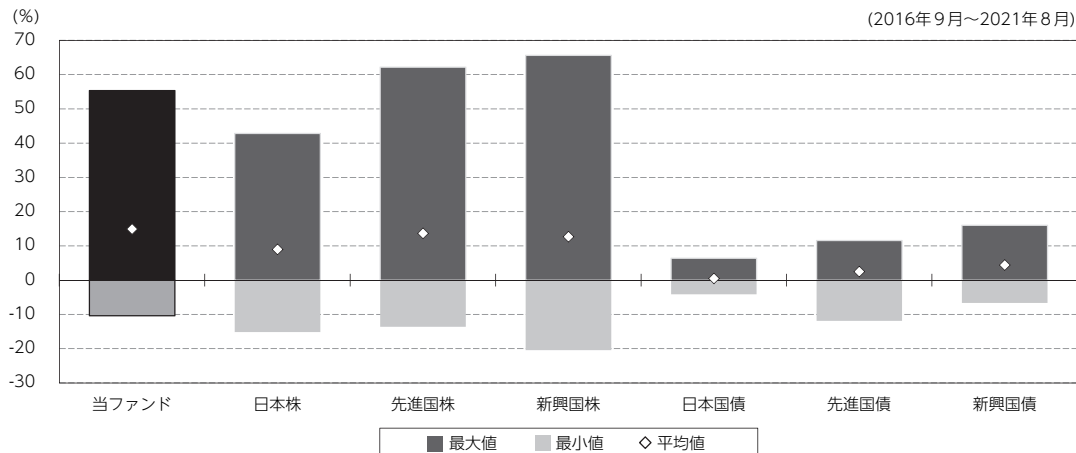
ファンドの名称を2021年6月15日付で「SBI・バンガード・S&P500 インデックス・ファン
ド」から「SBI・V・S&P500 インデックス・ファンド」に変更しました。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式／インデックス型	
信託期間	無期限（設定日：2019年9月26日）	
運用方針	SBI・V・S&P500インデックス・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてETF（上場投資信託証券）に投資し、米国の代表的な株価指数であるS&P500指数（円換算ベース）に連動する投資成果をめざして運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド （ベビーファンド）	SBI・V・S&P500インデックス・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	ETF（上場投資信託証券）を主要投資対象とします。
運用方法	当ファンド （ベビーファンド）	SBI・V・S&P500インデックス・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主としてETF（上場投資信託証券）に投資し、米国の代表的な株価指数であるS&P500指数（円換算ベース）に連動する投資成果をめざして運用を行います。
	マザーファンド	ETF（上場投資信託証券）への投資を通じて、米国の代表的な株価指数であるS&P500指数（円換算ベース）に連動する投資成果をめざして運用を行います。
分配方針	年1回（毎年9月14日。ただし、休業日の場合は翌営業日）決算を行い、原則として以下の方針に基づいて収益の分配を行います。分配対象額の範囲は、繰越分も含めた経費控除後の配当等収益（マザーファンドの信託財産に属する配当等収益のうち、信託財産に属するとみなした額（以下「みなし配当等収益」といいます。）を含みます。）および売買益（評価損益を含み、みなし配当等収益を控除して得た額とします。）等の全額とします。収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には、委託会社の判断により分配を行わないことがあります。留保益の運用については、特に制限を定めず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	55.3	42.8	62.2	65.6	6.4	11.6	16.0
最小値	△ 10.4	△ 15.1	△ 13.6	△ 20.4	△ 4.1	△ 11.9	△ 6.6
平均値	14.9	9.0	13.7	12.7	0.5	2.5	4.4

(注1) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 2016年9月から2021年8月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注3) 当ファンドについては、設定日以降のデータが5年に満たないため、2020年9月末から2021年8月末のデータを基に算出しております。なお、当ファンドに係る2020年8月までの年間騰落率についてはベンチマークを用いて算出しております。

(注4) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

《代表的な各資産クラスの指数》

日本株…Morningstar 日本株式指数

先進国株…Morningstar 先進国株式指数（除く日本）

新興国株…Morningstar 新興国株式指数

日本国債…Morningstar 日本国債指数

先進国債…Morningstar グローバル国債指数（除く日本）

新興国債…Morningstar 新興国ソブリン債指数

*海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。各指数は、全て税引前利子・配当込み指数です。

*各指数についての説明は、P12の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2021年9月14日現在)

○組入上位ファンド

銘柄名	第2期末
SBI・V・S&P500インデックス・マザーファンド	100.1%
組入銘柄数	1銘柄

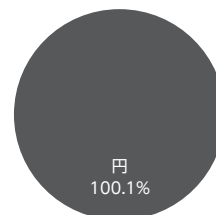
(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

○資産別配分

○国別配分

○通貨別配分



(注1) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注3) 国別配分の比率はマザーファンドの評価額に対する割合です。

純資産等

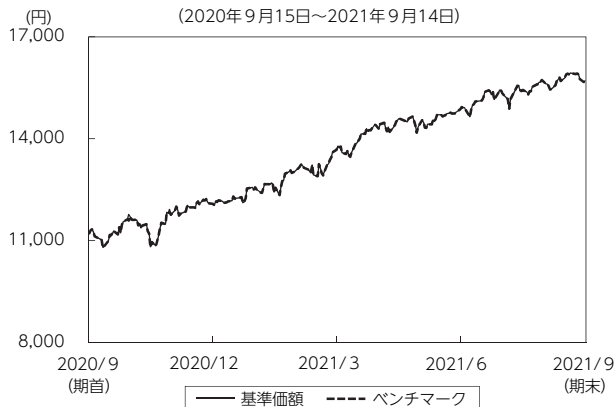
項目	第2期末
	2021年9月14日
純資産総額	312,260,391,408円
受益権総口数	199,256,632,897口
1万口当たり基準価額	15,671円

(注) 期中における追加設定元本額は177,805,620,178円、同解約元本額は40,245,951,388円です。

組入上位ファンドの概要

SBI・V・S&P500インデックス・マザーファンド

【基準価額及びベンチマークの推移】



- (注1) ベンチマークは、S&P500®を委託会社にて円換算しています。詳細はP12をご参照ください。
 (注2) ベンチマークは、期首（2020年9月14日）の値が当ファンドの基準価額と同一になるよう指数化しております。
 (注3) ベンチマークの値は取引所の営業日に準じて算出しています。

【1万口当たりの費用明細】

(2020年9月15日～2021年9月14日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料	－円	－%
(b) 有価証券取引税	－	－
(c) その他費用 (保管費用)	1 (1)	0.010 (0.010)
合計	1	0.010

平均基準価額は、13,461円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、P2をご参照ください。

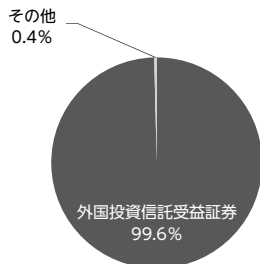
【組入上位ファンド】

(2021年9月14日現在)

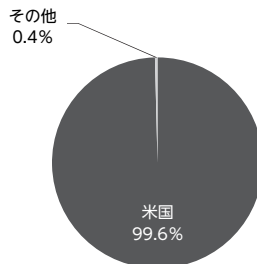
	銘柄名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率
1	VANGUARD S&P 500 ETF	投資信託受益証券	米ドル	米国	99.6%
組入銘柄数				1銘柄	

- (注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。
 (注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。
 (注3) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

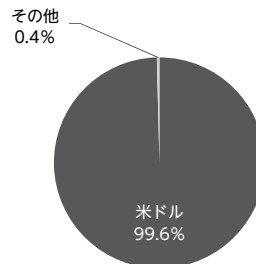
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



- (注1) 資産別・国別・通貨別のデータは2021年9月14日現在のものです。
 (注2) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。
 (注3) 国別配分は株式評価額に対する比率です。
 (注4) 国別配分は発行国を表示しております。

＜当ファンドのベンチマークについて＞

ベンチマークは、S&P500[®]を委託会社にて円換算しています。

OS&P500[®]

S&P500[®]は、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLCが公表している、米国の代表的な株価指数の1つです。ニューヨーク証券取引所、NASDAQ等に上場している銘柄から代表的な500銘柄を時価総額で加重平均し指数化しています。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

〈各指数の概要〉

日本株：Morningstar 日本株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。

先進国株：Morningstar 先進国株式指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。

新興国株：Morningstar 新興国株式指数は、Morningstar, Inc.が発表している株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。

日本国債：Morningstar 日本国債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。

先進国債：Morningstar グローバル国債指数（除く日本）は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。

新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債指数は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

〈重要事項〉

本ファンドは、Morningstar, Inc.、又はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc.が支配する会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に本ファンドに投資することの当否、または本ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動するMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」と言います）の能力について、本ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。本ファンドとの関連においては、委託会社とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstarインデックスの使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが委託会社又は本ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、委託会社又は本ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、本ファンドの基準価額及び設定金額あるいは本ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または本ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、本ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び／又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、委託会社、本ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。

S&P500®は、S&P Globalの一部門であるS&P Dow Jones Indices LLCまたはその関連会社（「SPDJ」）の商品であり、これを利用するライセンスがSBIアセットマネジメント株式会社に付与されています。Standard & Poor's®およびS&P®は、S&P Globalの一部門であるStandard & Poor's Financial Services LLC（「S&P」）の登録商標で、Dow Jones®はDow Jones Trademark Holdings LLC（「Dow Jones」）の登録商標であり、これらの商標を利用するライセンスがSPDJに、特定目的での利用を許諾するサブライセンスがSBIアセットマネジメント株式会社にそれぞれ付与されています。本ファンドは、SPDJ、Dow Jones、S&P、それらの各関連会社によってスポンサー、保証、販売、または販売促進されているものではなく、これらのいずれの関係者も、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、当インデックスのいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切の責任を負いません。